

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-59

| | |
|--|---|
| 学校名・団体名 | 愛知県立みあい特別支援学校 |
| HPアドレス | http://www.miai-sh.aichi-c.ed.jp/ |
| コース | 教育研究 |
| 活動・研究 テーマ | ICTで広げる地域コンサルテーション |
| 〈活動・研究の意義、目的〉 <p>特別支援教育に対するニーズは、小中学校でも年々高まってきている。しかし特別支援学校が行っている巡回相談は単発的で、継続した支援を行うことができない。そこで、本研究では本校の校区である岡崎市、幸田町の小中学校4校に対して、継続したコンサルテーションを行った。継続した支援を行うために校内で支援チームを編成し、本校が導入している情報端末（iPad）を支援ツールとして活用した。小中学校の特別支援教育に対するニーズに、本校の強みである iPad を生かした支援を活用することで効果的な地域支援が実施できると考えた。</p> <p>この地域支援を通して、小中学校の教員に高い専門性をもってもらうことで、地域の特別支援教育力の向上と共に地域の支援ネットワークの構築を目指した。</p> | |

1 時期

平成27年4月～平成28年3月

2 内容

(1) 目的

本校の校区内の小中学校から協力校を4校(小学校2校、中学校2校)募集し、特別支援学級を中心に月1回程度の訪問による継続したコンサルテーションを行った。コンサルテーションとは、異なる専門性をもつ複数の者(本校職員、協力校の教員)が、援助対象(協力校の児童生徒)の問題状況について検討し、よりよい援助の在り方について話し合うプロセスのことである。本研究では、協力校のニーズを聞き取り、ニーズに応じて相談支援を行うことで、問題や課題を評価・整理し、解決に向けて相談者(協力校の教師)の力量を引き出すことを目指した。

(2) 方法

①情報端末を使った実態把握

相談手段として、協力校への支援ツールとして本校のiPadを協力校に貸し出した。また、校内で各協力校に対して4～5名からなるサポートチームを結成し、iPadで児童生徒の行動の記録等を行うことでサポートチームと協力校との情報共有をし、サポートチームで支援方法や教材の提案等のコンサルテーションを行った。各協力校のニーズ、実践した支援内容は表1のとおりである。

表1 研究協力校での支援内容

| 協力校 | 主なニーズ | 支援内容 |
|-----------|----------------------------|--|
| 岡崎市立緑丘小学校 | 特別支援学級の授業、児童の対応について | 児童の実態把握(アセスメント)、授業内容・対応方法の助言、iBooksを活用した現職研修 |
| 岡崎市立葵中学校 | ICTを使った学習教材について | 生徒の実態把握(アセスメント)、iPadのアプリケーションの紹介、iBooksを活用した現職研修 |
| 幸田町立中央小学校 | 児童の特性に応じた配慮、授業について | 児童の実態把握(アセスメント)、授業内容の助言、iBooksを活用した現職研修 |
| 幸田町立幸田中学校 | 特別支援学級の授業改善 通常の学級の生徒の対応 | 教材の紹介、授業内容の助言、通常の学級生徒の対応方法の助言、iBooksを活用した現職研修 |

②iBooksの活用

本校が協力校へ貸し出したiPadには、本校が制作した電子図書「みあいスタンダードシリーズ」(以下、iBooks)がインストールされている。このiBooksには、「障害特性の理解」「教師の基礎的スキル」「応用行動分析(ABC分析)」など、特別支援教育において必要な知識・技術が動画を使ってまとめられており、協力校の教員がいつでも確認できるようにした。また、各協力校のニーズに応じて児童生徒の実態把握、アセスメント等を行う際にも、事前にiBooksを見ていただくことで、コンサルテーションの効率化を図った。

③協力校同士の情報交換

6月に協力校4校が集まり情報交換会(iサポートサミット)を開催した。各校の進捗状況や課題、iPadの活用状況や研修方法などについて情報交換を行った。

④様々な研修の場の活用

サポートチームが講師となり、各協力校で現職研修を行った。「児童生徒の特性理解」「応用行動分析」などiBooksを活用して、各協力校のニーズに応じたテーマで研修を行った。

また、本校では地域の小中学校の教員を対象として、iPadの活用術についてのワークショップや教材・教具の紹介等、小中学校の教員のスキルアップを目的とした研修会を開催したり、幸田町の特別支援学級担当教員を対象にした研修会にも講師として参加したりした。

⑤iBooksの改訂版の作成

iBooksを研修会等で活用しているが、従来の動画は小学部の児童のものが多かったため、協力校で更に活用していただけるように、本校の校内研究で小学部版、高等部版を作成した。そして、1月22日に本校で行われた研究発表会では、参加者へiBooksを配布した。

3 成果

(1) 協力校へのアンケート (n=30)

研究協力校の教員に対するアンケートを本年度の5月と11月に実施した。その結果を図1、図2に示した。

図1は、「特別支援教育に対して不安はありますか？」との質問に対し、事前では65%の教員が「ある」「少しある」に該当した。コンサルテーションを実施した後の11月では、55%に減少し、「あまりない」の割合も増加した。

図2は、「適切な支援方法が分かりますか？」との質問に対し、事前の5月は「少し分かる」と答えた教員が17%であったが、コンサルテーション後の11月には34%に上昇し、同時に「あまり分からない」の割合も減少した。

また、自由記述で「実際にどのような支援をしていますか」についても、「学習環境への配慮をする」「個々への声かけを意識して行う」「作業手順を板書する」といったように、具体的な支援の回答が増加した。

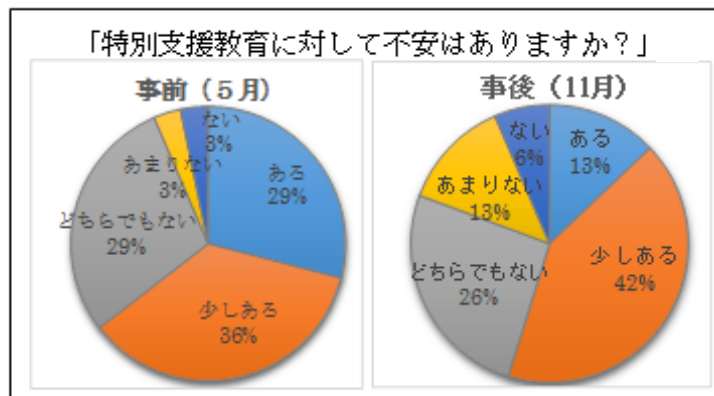


図1

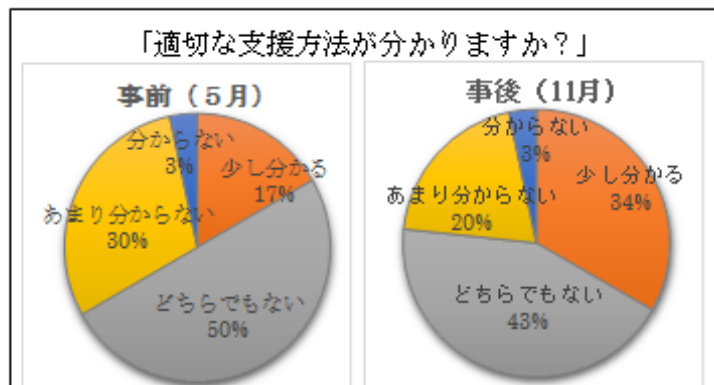


図2

(2) サポートチームへのアンケート (n=15)

サポートチームのメンバーに対するアンケート結果を図3、図4、図5に示した。

「協力校の教員の専門性は向上したか(図3)」については、「障害特性に関する知識が増え、教員が見る児童生徒の行動を理解するようになった」「教室の環境が整ってきた」「授業の課題など自分で考えることができるようになった」など、協力校でのスキルアップを図ることができた。

「自身(本校職員)の専門性は向上したか(図4)」については、「チームで意見交換することで、自己理解が深まった」「自分が授業を行うときにも個別の配慮を改めて意識するようになった」というように、コンサルテーションを通して、本校職員の専門性の向上も見られたことが分かった。

また、「情報端末(iPad)の利用は有効だったか(図5)」については、「iBooksを活用することで、具体的なイメージを共有でき、実態の把握がしやすい」「訪問の回数には限りがあるため、それを補う物としての活用は有効」「みあいスタンダードをお貸ししたiPadでいつでも見て確認できることは、協力校の教員の個人の研修ツールとして効果的だった」「授業風景を撮影して授業を(担当者で)振り返ることは有効だった」というように、コンサルテーションにおいてiPadを活用することは有効であった。

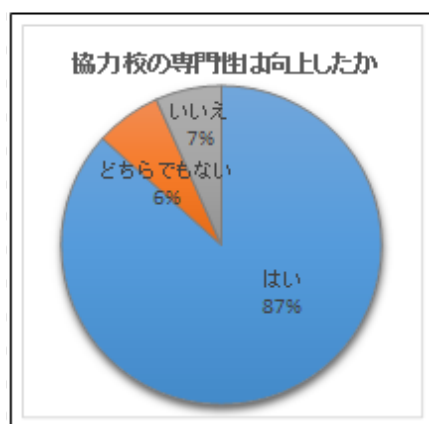


図3

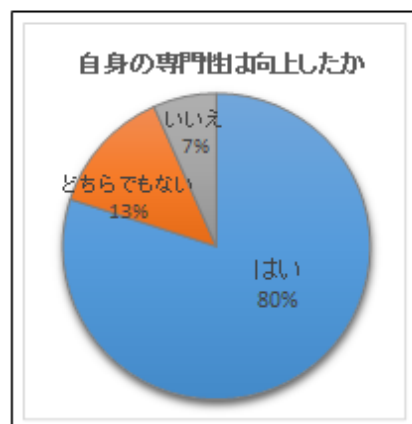


図4

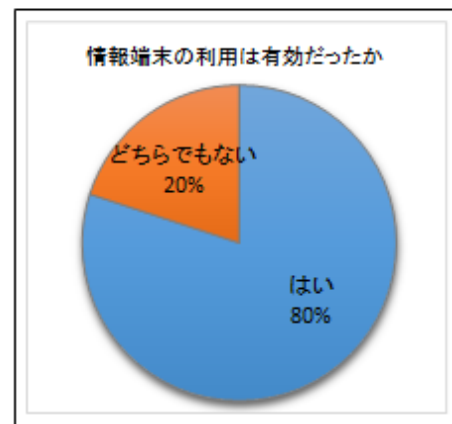


図5

4 今後の展望

今回の研究では、継続して協力校に訪問することができたが、実際には小中学校の教員は多忙であり今回のように定期的に時間を割いていただくことは難しいと感じる。しかし、本研究で行ったように、iPadを活用することで相談時間の短縮、教師のスキルアップを図ることができた。研究は3月で終わるが、今後も地域支援において更なるiPadの活用方法を検証し、協力校以外の地域の他の小中学校にも支援を広げていくことで、地域の特別支援教育力の向上と連携を図っていきたい。